

石西礁湖自然再生行動計画

【陸域対策】

(骨子案)

平成 20 年 3 月

石西礁湖自然再生協議会

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 経緯	2
3. 目的と基本的構成	3
(1) 目的	3
(2) 陸域対策に係る行動計画の役割	3
(3) 行動計画の構成	3
4. 基本的考え方	4
(1) 活動の進め方	4
(2) 計画期間	4
(3) 進捗状況の把握	4
5. 具体的な取組	5

1. はじめに

石西礁湖における陸域対策の重要性について

2. 経緯

- 平成 18 年 2 月 石西礁湖自然再生協議会が発足
第 1 回 石西礁湖自然再生協議会
- 平成 18 年 8 月 第 2 回 石西礁湖自然再生協議会
- 平成 18 年 11 月 第 3 回 石西礁湖自然再生協議会
- 平成 19 年 3 月 第 4 回 石西礁湖自然再生協議会
- 平成 19 年 7 月 第 5 回 石西礁湖自然再生協議会
- 平成 19 年 12 月 第 6 回 石西礁湖自然再生協議会
(第 1 回 グループディスカッション)
- 平成 20 年 3 月 第 7 回 石西礁湖自然再生協議会
(第 2 回 グループディスカッション)
-
-

※石西礁湖自然再生協議会=以下「協議会」という。

3. 目的と基本的構成

(1) 目的

石西礁湖自然再生全体構想（以下「全体構想」という。）では、長期目標及び短期目標を掲げており、この目標を達成するために協議会委員が展開すべき取組の一つに、「攪乱要因の除去」があります。

「攪乱要因の除去」では、サンゴ礁生態系が人為的活動やそれに関連する現象によって大きな影響を受けていることから、攪乱要因を除去するために取組みを行うこととしています。

(2) 陸域対策に係る行動計画の役割

石西礁湖の自然再生を着実に実現していくためには、陸域と海域が一体となった統合的な取組を進めていくことが不可欠です。そこで地域住民、関係する行政機関、地域で活動を行っている団体、サンゴ礁生態系に関し専門的知識を有する者が共通の認識の下に、互いに連携、協力を密にして行動していくため、協議会を設立しました。

協議会では、「普及・啓発」、「陸域対策」、「基金メカニズム」の3つのグループに分かれてディスカッションを行い、各グループにおいて行動計画を作成しました。

本行動計画は、自然再生推進法に基づく実施計画ではありませんが、全体構想に基づき作成される各種実施計画に陸域対策の促進を盛り込んでいくための指針としても重要なものです。

(3) 行動計画の構成

行動計画の構成について示す。

4. 基本的考え方

(1) 活動の進め方

協議会におけるグループディスカッションを中心に、活動案の具体化について検討し、行動メニューを作成し、活動を進めていきます。実施された活動については、協議会等で報告、評価、見直しを行います。

(2) 計画期間

行動計画の計画期間は、全体構想の展開すべき取組の達成状況に合わせて、概ね●年とし、協議会において評価・見直しを行います。

(3) 進捗状況の把握

行動計画のグループディスカッションでは、年度毎に進捗状況を取りまとめて総合的に評価するとともに、新たな取組みや主催者を募集します。これをもとに、行動メニューを更新していきます。

5. 具体的な取組

【参考：全体構想】陸域対策

サンゴ礁生態系は、人為的活動やそれに関連する現象によって大きな影響を受けています。攪乱要因を除去するために以下の取組を実施します。

1) 赤土等流出防止対策

営農や土木工事等において、赤土等の流出防止に努めます。沖縄県赤土等流出防止条例の遵守とともに、地域が一体となった総合的な対策の推進が重要です。

2) 排水等対策

生活や産業における排水処理の向上等に努めます。公共下水道への接続率の向上や合併浄化槽設置の推進、畜産排泄物管理の徹底、農薬や化学肥料等の使用削減、船底塗料対策等を進めることが重要です。

3) 観光手法の改善

ダイビングやスノーケリング利用者のフィンキックや踏みつけによるサンゴの破壊、ダイビング船等のアンカリングによるサンゴの破壊等を減らすための取組を実施します。

4) 生活スタイルの改善

環境負荷の少ない製品への代替やゴミの減量等により、環境にやさしい生活スタイルへの転換を推進します。

石西礁湖の島々の環境・環境負荷について

出典：離島関係資料(平成20年1月)、沖縄県企画部より抜粋

単位	面積 km ²	人口 人	人口密度 人/km ²	作付面積総数 a	サトウキビ a	牛 頭	放牧地面積 ha	放牧頭数 頭	豚 頭	入域観光客 人
石垣島	222.63	47,475	213.2	170,332	119,984	25,394	644.8	8,963	4,683	754,289
竹富島	5.42	342	63.1	X	-	453	122.1	358		512,865
小浜島	7.84	635	81.0	4,420	4,060	1,042	92.3	513		165,987
嘉弥真島	0.39	2	5.1							8,059
西表島	289.27	2,274	7.9	21,607	15,501	1,988	282.9	1,568		355,262
由布島	0.15	17	113.3							
黒島	10.02	214	21.4	-	-	2,876	542.0	2,297		23,156
新城島(上)	1.76	9	5.1							1,839
新城島(下)	1.58	2	1.3			419				

	主な土壌
石垣島	国頭マージ・島尻マージ・沖積土壌
竹富島	島尻マージ
小浜島	国頭マージ・島尻マージ
嘉弥真島	国頭マージ
西表島	国頭マージ・沖積土壌・島尻マージ
由布島	沖積土壌
黒島	島尻マージ
新城島(上)	島尻マージ
新城島(下)	島尻マージ

土壌の性質

国頭マージ：一般的に雨水の浸透性が悪く、表流水が発生しやすい。

島尻マージ：雨水の浸透性がよく、地下水が発達しやすい。

沖積土壌(河川由来)：浸透性が悪い。田んぼの土など。

沖積土壌(海岸由来)：浸透性がよい。

赤土流出総合対策開発事業(石垣市):実証調査実績総括表

赤土流出防止対策資材生産及び提供試行

(平成20年2月現在)

	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	参加者数	実施数量	参加者数	実施数量	参加者数	実施数量
①緑肥作物種子提供	275人	189.42ha	260人	211.07ha	254人	243.71ha
②さとうきび葉殻梱包提供	17人	2,411個	33人	3,837個	31人	3,656個
③グリーンベルト苗提供	14人	10,906本	6人	8,490本	10人	8,542本
④さとうきび葉殻全面マルチ	8人	6ha	24人	15ha	受付中	19.5ha (予定)
⑤さとうきび春植・株出苗提供	-	-	109人	27.5ha	-	-

対策内容

- ◎緑肥作物の播種・・・クロタリヤ等緑肥作物を植えて、ほ場の裸地状態を解消し、土壌の流出を防止するとともに、ほ場に鋤き込むことで地力を向上させる。



◎さとうきび葉殻梱包設置・・・精糖工場から発生するサトウキビのトラッシュ・バガスを梱包した「葉ガラ梱包」を農地の傾斜下部に設置して土壌の流出を抑える。



◎グリーンベルトの設置・・・ほ場の最下流端にゲットウを植栽することによって土壌の流出を抑制する。



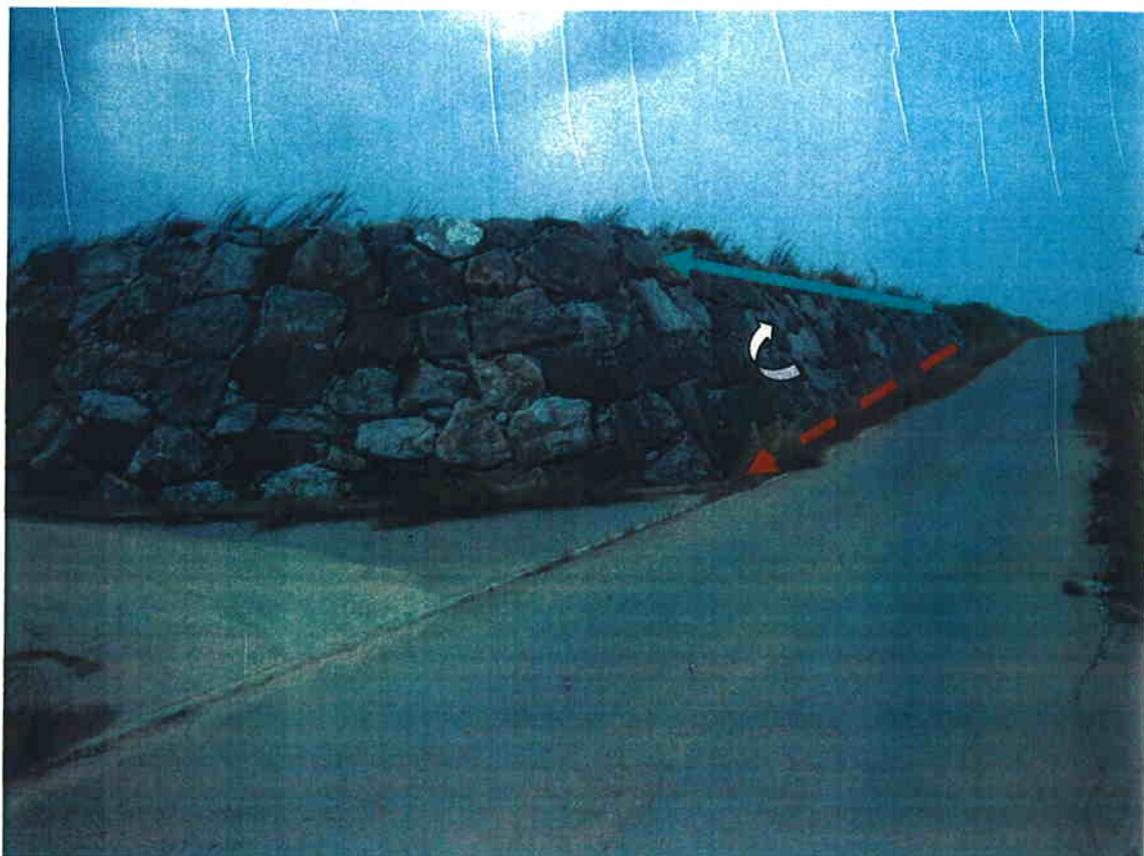
◎さとうきび葉殻全面マルチ・・・さとうきびの葉ガラ等敷き草によるマルチングを行うことによって裸地状態を解消し、雨水が直接畑面に当たらないようにすることで、土壌の流出及び侵食を防止する。



◎さとうきび春植・株出苗・・・サトウキビの春植・株出栽培を行うことによって生産性を高めると同時に収穫から植付けまでの裸地状態を解消する。



◎勾配修正・・・ほ場勾配を 1.7° 以下に修正することによって、ほ場内の雨水の流れる速さを減速させ耕土の流出を抑制する。



赤土等流出対策啓発普及に関する取り組み

1. 土壌保全の日

県・市及び関係機関、名蔵小中学校の児童生徒の皆さんの協力を得て、グリーンベルト、緑肥作物（ひまわり）の植付け作業を行った。



2. 対策推進農家表彰

従来は主にグリーンベルトでの対策農家が表彰の対象になっていたが、平成18年度は緑肥・葉ガラ梱包・葉ガラ全面マルチ等を含め、複合・複数年対策している農家を対象にした。

